



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年02月09日 第1254「週刊五十嵐レポート」

衆院選、1票の原価

2月6日付日経新聞、「衆院選、1票の原価3.6円」という記事。

選挙には何かとお金がかかる。忘れてはいけないのが投票用紙。ただの紙切れに見えるが、実はプラスチック製で、今回の衆院選では1枚3.6円する。短期決戦で納期が短くなったことで追加コストが発生、更に円安進行による原材料費の上昇も重なり、前回の衆院選より1~2割高くなった。

投票用紙にはプラスチックの一種であるポリプロピレンが使われる。水に強くて破れにくく、折り目をつけても投票箱の中で自然と開くため開票時間を短くできる。合成紙メーカーのユポ・コーポレーション(東京・千代田)が手掛ける合成紙「ユポ」が全国多くの選挙管理委員会で使われている。各都道府県の選挙管理委員会が入札で印刷会社と契約し、そこにユポ・コーポレーションが投票用紙の素材となる合成紙を卸す例が多い。

今回の衆院選に使う投票用紙の値段は1枚当たり3.6円。2024年衆院選(3.3円)に比べ9%ほど高くなった。1月26日時点の有権者数は1億351万71115人。小選挙区と比例代表を合わせて費用は約7億4500万円。

値上げの要因は複合的。一つは、ユポ・コーポレーションの製品の値上げ。原料のナフサが値上がり傾向の上に円安進行で輸入価格を押し上げられた。もう一つは超短期決戦のスケジュールに対応するためのコストが増えた。配送にかかれる時間も短かったため輸送費も高くなった。

帝国データバンクの会社年鑑によると、ユポ・コーポレーションの業績は次の通り。2022/3期売上16,500百万円、純利益2,079百万円、従業員347名。1人当たり純利益6百万円。高収益企業である。投票用紙はほぼユポ・コーポレーションの製品を扱っていると思われる。競争相手がいない。価格決定権がある。価格転嫁が容易にできる。よって高収益が可能になる。

短い納期に約束通りに納めると、高価格を設定できる。価格より納期(スピード)に価値が出てくる。

儲かるには、理由がある。

ちょっと
気になる出来事

2月7日付日経新聞、「金メダルの原価20年前の8倍に」という記事。イタリアでミラノ・コルティナ冬季五輪が開催。メダルの原価を試算したところ、金メダルは20年前に同国で開かれたトリノ大会時の8倍になっている。

金メダル:トリノ約267ドル、ミラノ・コルティナ約2177ドル(8.2倍)

銀メダル:トリノ約157ドル、ミラノ・コルティナ約1277ドル(8.1倍)

銅メダル:トリノ約2ドル、ミラノ・コルティナ約5ドル(2.5倍)

トランプ米政権の関税政策による混乱や緊迫化する中東情勢、最近では米国によるベネズエラへの軍事攻撃のほかデンマーク領グリーンランドを巡る米欧の応酬など、この1年間で多くの人が将来へ不安を感じるような出来事が重なり、金は買われ続けた。

金のロンドン市場の価格は1月29日に1トロイオンス(約31グラム)当たり5595ドルと最高値を更新、1年間で約2倍になった。

銅メダルの原価を1としたとき、金メダルは435倍、銀メダル255倍。銀メダルを1としたとき、金メダルは1.7倍。なるほど、やはり金メダルは魅力的だ。



一口メモ
知識

利益と欲 2

ひとかどの人物になろうと思うなら、3つの戒めに気をつけることだ。

青年期は血気が不安定だから、気をつけるべきは性欲。

壮年期は血気盛んだから、権力欲だ。
出世競争などに夢中にならないことだ。

老年期は血気は衰えるが、
それに反比例して増してくる名誉欲に気をつけることだな。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

